
「破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血症例に対するクラゾセンタンを用いた脳血管攣縮期治療に関する検討」に関するお知らせ

このたび、当院で脳動脈瘤の治療を行った患者さんのカルテ情報を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2019 年 5 月 1 日から 2025 年 4 月 30 日の期間に埼玉医科大学国際医療センターを受診し、くも膜下出血と診断され開頭手術を受けた患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

くも膜下出血は重篤な病気ですが、発症後に脳血管攣縮という病態を発症することがあります。脳血管攣縮は脳梗塞の原因となり、患者さんの予後をさらに悪くことが知られています。2022 年 5 月から、脳血管攣縮を予防するための新しい薬剤であるクラゾセンタンの使用が当院で始まりしました。使用開始後間もない薬剤であり、実際の効果や合併症等につき十分検討する必要があります。そこで、くも膜下出血で入院、手術を受けた患者さんのカルテから治療経過を含む情報を取得し、よりよい脳血管攣縮予防法の確立につなげることが目的です。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026 年 9 月 30 日

4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から約 1 か月程度

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

2019 年 5 月 1 日から 2025 年 4 月 30 日までに埼玉医科大学国際医療センターで開頭手術を受けたくも膜下出血の患者さんについて、年齢、性別、受診時の病歴、既往歴、内服歴、嗜好品、来院時の全身状態、血液検査や画像検査の結果、治療の経過（脳血管攣縮に対する治療を含む）、合併症、退院時の状態について電子カルテ閲覧により情報を取得します。

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて、研究責任者

である栢原智道が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

くも膜下出血と診断された患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

・埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中外科 栢原 智道（研究責任者）

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学国際医療センター 病院長 佐伯 俊昭

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中外科 栢原智道

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4111（土日祝日を除く 8:30～17:30）

○研究課題名：破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血症例に対するクラゾセタンを用いた脳血管攣縮期治療に関する検討

○研究責任（代表）者：埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中外科 栢原智道